

10 大雨のときのことを考え、話し合ってみよう — 全体の流れ

グループごとに地域の地図を広げて、地域の危険なところ（浸水しそうなところ、土砂崩れが起きそうな場所など）や、災害時に役立つところ（避難所、消防署など）を書き込みながら、風水害時にどう対応すべきかをみんなで話し合う災害図上訓練 DIG（ディグ）について、全体の流れを解説します。



災害図上訓練 DIG（風水害版）の全体の流れを解説します。



時間軸

実施内容

授業1回目★45分[1][2][3]、2回目★45分[4][5]、3回目★45分[6][7]

対象人数★5～40人（1グループ5～10人）

事前にグループ分けをし、テーブルを囲んで席に着いてもらいます。道具類は事前に準備しておきます。

1 大雨のときのことを考え、話し合ってみよう①

— DIGってなあに？（10分）

DIGとは何か、使用する道具類などを説明し、演習の準備を行います。



DIGで使う準備品

2 大雨のときのことを考え、話し合ってみよう②

— 災害のイメージを持ちましょう（15分）

風水害時のイメージを持つため、過去に起きた風水害を振り返ります。



風水害の被害をイメージする

3 大雨のときのことを考え、話し合ってみよう③

— 自然やまちのつくりを地図に書き込みましょう（20分）

グループ内で話し合いながら、自然やまちのつくりについて地図に書き込んでいきます。



自然やまちのつくりを地図に書き込む

4 大雨のときのことを考え、話し合ってみよう④

— 風水害時に役立つものや人を地図に書き込みましょう（25分）

風水害時に役立つところや人をグループで話し合いながら地図に書き込みます。



地域の強み・弱みを地図に書き込む

5 大雨のときのことを考え、話し合ってみよう⑤

— どのような被害が起こるかを考えましょう（20分）

風水害が地域で起きたらどのような被害が起こるか考え、地図に書き込みます。



被害を予想してふせんに書く

6 大雨のときのことを考え、話し合ってみよう⑥

— 避難について考えてみましょう（30分）

風水害のときどのように避難するかを考えます。また、これまでグループで話し合った内容をまとめ、発表用の資料を模造紙で作成します。



模造紙にまとめる

7 大雨のときのことを考え、話し合ってみよう⑦

— みんなで発表しましょう（15分）

6でまとめた内容をグループごとに発表してもらい、みんなの考えを知ります。最後に指導者から説明を行います。

指導ポイント

本項は、DIGの大まかな流れを示したものです。詳しい解説と進め方は、次ページからの「大雨のときのことを考え、話し合ってみよう①～⑦」を参考にしてください。

自主防災組織の関わり方

各グループにはりついて、指導者の手伝いをお願いすることが考えられます。

準備するもの（目安）

準備品	数	備考
<input type="checkbox"/> 地図（1/2500～5000）	グループに1つ	役所・役場で住宅地図を借りてコピー
<input type="checkbox"/> 透明シート	グループに1つ	ホームセンター等で購入
<input type="checkbox"/> セロハンテープ	グループに1つ	
<input type="checkbox"/> 油性ペン（8色程度）	グループに1つ	
<input type="checkbox"/> ベンジン	グループに1つ	ホームセンター等で購入
<input type="checkbox"/> ティッシュペーパー	グループに1つ	
<input type="checkbox"/> ふせん（メモ、大きいものと小さいもの2種類）	グループに1つ	
<input type="checkbox"/> 丸形のカラーシール（8種類程度）	グループに1つ	
<input type="checkbox"/> 模造紙	グループに1つ	

その他：透明シートは、上記のほかに余部を数部用意しておきましょう。

家庭への持ち帰り

風水害時の避難について家族としっかり話し合いをしましょう。

ひと工夫

DIGはいろいろな災害をテーマとして実施することができます。本教材には、風水害版以外に、地震版も掲載していますので、ぜひやってみてください。

注意事項

DIGはみんなで楽しくやるのが大切です。各グループが和やかに実施できるような工夫（最初に固くならないように、自己紹介の際に好きな食べ物を聞いたりするなど）が必要です。

油性ペンを使用する場合は、換気に気をつけてください。

補足

災害図上訓練 DIG（ディグ）は、住民やボランティアを含んだ地域防災のあり方を探っていた三重県消防防災課（当時）の平野昌氏と、防衛研究所で災害救援を研究していた小村隆史氏（現富士常葉大准教授）の二人が中心となり、自衛隊の指揮所演習で使う地図と透明シートの方式を活用してあみ出したものです。